

2025 年度第 1 回豊岡市障害者自立支援協議会全体会議 会議録要旨

注) 会議録については、発言内容を一言一句正確に整理したものではありません。

発言内容をもとに一部表現（文言）を変えて表記している箇所があります。

- 日 時：2025 年 8 月 19 日（火）13：30～15：40
- 会 場：豊岡市役所立野庁舎 1 階 多目的ホール
- 出席者： 18 名
- 欠席者： 2 名
- 傍聴者： 6 名

○会議要旨

1 開 会

2 あいさつ

3 委員の紹介

4 報告・協議事項

(1) 会長及び副会長の選出について

会長 田中 正義 委員

副会長 田垣 正晋 委員

(2) 事務局からの報告について

- ・ 資料に基づき説明

(3) 部会及びグループの取組について

ア せいかつ部会

- ・ 資料に基づき説明

イ しごと部会

- ・ 資料に基づき説明
- ・ 質疑応答等

【A委員】

現時点ではセンターは実現できそうなのか、できるとすればどのような機能に絞り込めそうか。

【しごと部会】

短時間のスポット的な仕事を障害のある方にマッチングする機能は効果があると考えている。それ以外は、作業のコーディネートをしたり、企業実習の場所を開拓したり、どういう風にすれば就労

につなげていけるかという勉強会を開く等の意見も出ている。

【A委員】

ということは、短時間といえども労働の材料を誰がどうやって集めるかは今後考えていかないと
いうことか。

【しごと部会】

仕事を集めてこないといけないが、そこにはまだ検討が及んでいないという状況だ。

【A委員】

最後にアプリ開発の話が出ていたが、アプリという大層なものに感じるが、グーグルのアカウントを使ったり、エクセルを使ったり、オープンソフトウェアを使えばそんなにコストもかからないので、参考にしてほしい。

ウ こども部会

- ・ 資料に基づき説明
- ・ 質疑応答等

【A委員】

中高生の居場所の話が大きな課題とあったが、中高生の方たちは実際どう思っているのか。大人からは、中高生の居場所が必要だという話はよく伺うが、一方で中高生自身は居場所を必要と感じているのか、大人の考えと思春期のこどもの考えは一致しないことも多い。

【こども部会】

おっしゃるように、親御さんはどこかに出てほしいと思っても、お子さん自身が家で気楽に過ごしたいという方もあるので、親御さんの気持ちとお子さんの気持ちがイコールではないという家庭もある。

【A委員】

家から出ない場合、健康診断が受けられないため、健康問題は出てくる。これは保健師さんの方がお詳しいと思うが、不登校の方の健康問題ということで大きい問題になっている。一方で、今はオンラインの技術が発達していて、「学校に行かなくてもY o u T u b eで勉強したほうが早い」というお子さんもいらっしゃるし、悪い面ばかりでもない。ただ実際に外に出てみたら「結構面白いことがあって良かったよ」という話もあるので、居場所の話をするときに、「居場所で何がしたい、何をするのか」という話があったほうがいいと思う。機会があったら、親御さん抜きにして、オンライン等でお子さんに聞くチャンスがあれば良い。

【B委員】

当事者団体で障害児を育てていて、ずっと歩んできた過程から考えると、まず入口の障害受容の部分から始まって、お子さんのステージ毎の相談窓口だったり、保護者が学ぶ機会だったり、情報を得る場所だったり、本人の居場所であったり、社会参加していく場面だったり、なかなか情報がつかめず、ご家庭で苦勞しておられる。他地域では、障害発覚のところから支援チームがあったりするが、現状で豊岡市では、関係機関は沢山あるが、点が沢山あって、線・面になっていかない。当事者からすると、ここに行ったらこう言われ、あちらに行ったらああ言われ、どの話をどう聞いて受け取った

らいいのか分からないというようなことが、よく起こる。障害の重軽関係なく、障害発覚の時期がどこであれ、同じような部分で皆さん困ってらっしゃる。こどもの時期に、そのあたりのサポート体制としてももう少しきっちりしたシステムがあると、本人も家族も助かると思う。30年前からそうだったが、今でもそういう問題がある。一つ一つの問題をとれば、居場所づくりをしようとか、そういう話になるのだが、最重度と軽度の方で同じではない。課題としては同じと言えるが、内容が全く違う。不登校にしても障害ある人・ない人・ボーダーの人でイコールには出来ない。課題をしっかりと見て、一緒にできる課題と個別の課題というのがあるので、どの人でもその困り感というのが、相談出来て少しずつでも進んでいけるようなシステムが欲しいと思う。今は学校、福祉、医療、教育委員会、健康増進の保健師等、それぞれが活動していらっしゃるので、それが一本の柱になっていかない。こどもの支援で行くと、その課題が大きいと思う。

【C委員】

私もちょうせい会議に出ているが、B委員のおっしゃるシステムの問題はこども部会の方も感じておられるところで、具体的に何を取り組むか、というところですごく悩んでおられると思う。こどもの問題に関して、こういう風に取り組めばいいというご提案をいただきたい。

【A委員】

本来、自立支援協議会の設置目的は実はそこだと思う。部会で、各々でやるというよりは、全体会議がやることであって、この何十年間でいろんな施設が増えたが、一方でバラバラな面もまだあるという話だと思うので、例えば「全体をコーディネートする仕組みを提案する」という内容で、アジェンダを作ったほうがいい。ここで具体的な話を出すのも良い話だと思うが、それを実際にまとめる作業が必要なので、そういうことを考えるための提案というものをプロジェクトとしてやるか、別途1つの部会にするか、全体会議の中の1つのアジェンダとするか、あるいは次の豊岡市障害者福祉計画の課題にするか、そのようなやり方でされた方がいいと思う。

【D委員】

今お話しを伺っていて、各部会で広がりが出てしまっていて、そこを調整するのがちょうせい会議になると思う。どういうメンバーなのか分からないが、部会のメンバー以外からも意見をもらって「もうちょっと絞り込みをしたらどうだ」とか、そういう議論をされるのが、本来のちょうせい会議ではないかと思うが、どうか。

【ちょうせい会議】

今のちょうせい会議は月1回開催しており、その中で各部会から活動を報告していただき、改善点等を話し合っ、その内容を部会に持ち帰っていただくという流れで進めている。ただ、部会が感じる課題を進めていくというのを大事にしている為、ああしてこうしてと指示するのではなく、ここは修正した方がいいのではないかっていうような提案をさせていいただいているというのが現状だ。

エ はっしん部会

- ・ 資料に基づき説明

オ 相談グループ

- ・ 資料に基づき説明
- ・ 質疑応答

【E委員】

課題に向けた取り組み④のところに「セルフプラン解消に向けた取り組み」とあり、現在、セルフプランの方が18歳以上で4名、18歳未満で104名と聞いたが、どのような事情でセルフプランになっているのかを教えてほしい。

【相談グループ】

何年も前から話になるが、相談支援専門員の不足という課題がある。障害福祉サービスを受けたいという希望があるのに、相談支援専門員待ちという状態があった。どちらが早いと一概には言えないが、18歳未満の場合、親御さんが早くプランを書ける人なら、セルフプランの方が、親御さんのペースでスピード感をもって利用事業者との契約まで動ける場合がある。セルフプランは国も認めている方法の一つだが、モニタリングが入らないので、その子にとって本当にこのプランが良いのか、このサービスを受け続けることだけでいいのか、他にも何か方法はないのかといったところを、親御さんが考えないといけないのが1つのデメリットとなる。相談支援専門員の人数に限りがあるため、18歳以上の方で障害特性も固まっていて、プランの変更が度々必要ではない方をセルフプランに移行していき、その分18歳未満のセルフプランを解消できればと思っている。

【A委員】

セルフプランの方にアンケートをしていたと思うが。

【事務局】

更新の際に、「セルフプランで困っていないか」、「相談員をつけたいと思うか」等のアンケートを行い、もし希望があれば基幹相談支援センターの方で事業所につなぐということをしている。

【A委員】

若い方はA Iでセルフプランを立てているケースもあると思う。一番怖いのは、親御さんとこどもさんのニーズが違っているのに、そのままいってしまうことだ。また参考までに伝えると、他の自治体だと、相談員の数がないので、自治体の方からセルフプランをお願いしている例もある。

(4) 豊岡市障害者自立支援協議会から豊岡市への提言（案）について 資料2

ア 豊岡市における権利擁護のあるべき仕組みについての提言（案）

イ 豊岡市における障害者の一人暮らし支援についての提言（案）

- ・ 資料に基づき説明
- ・ 質疑応答

【A委員】

成年後見制度の制度的な難しさというのがあるという点で、非常にいい勉強になった。まず形式的なことを申し上げると、体裁をもう少し簡潔に整えた方が良い。重複している部分をまとめてスッキリさせ、行間を読まないといけない部分は補足等の工夫が必要だ。一度ウェブサイトに乗ってしまうと、他の自治体や関係者の方々の目に触れることになるため、ご検討いただきたい。

それから内容の話をする、一人暮らし支援プロジェクトの方で提言が3つ挙げられているが、

(1)(2)は具体的で、(3)は抽象的な話になっている。一番のネックとなるのは、民間賃貸住宅を活用する場合に、例えば保険の話やリスクマネジメントの話、火災・事故が起きた時どうするかという具体的な話かと思う。そういうことをしっかり議論する場というものを作っておく必要がある。内容についてどれくらいまで具体的に盛り込むかを相談させてほしい。

いつ頃これをまとめて出すのかは決まっているか。デッドラインを決めておいた方が良い。

【せいかつ部会】

いつとは決めていないが、提言は全体会議の方から市に挙げるものなので、提言案を出すところまでがプロジェクト（部会）の役割かと思っている。提言内容に関しては全体会議の方で揉んでいただいて、次回の全体会議やそのあとの全体会議で修正案を協議していただきながら最終的な提言にまとめていただくという形になると思う。

【F委員】

こういった提言は初めてか。

【A委員】

2回目だ。4、5年前に1回あり、その際は全体会議で議論をしてから、当時の運営会議の方達と文言について一言一句修正した。せいかつ部会のプロジェクトとしていったん終わっていただくのは良いと思うが、内容をどこまで具体的にするかという部分は、部会の皆様の思いがあるので相談したい。

【せいかつ部会】

一人暮らし支援プロジェクトの中で具体的な話に踏み込んで議論したこともあるが、まず（「おためしハウスとして使える」）箱がないことには動かないと考えたため、箱を準備してもらえるよう早く提言として出したい、という話になった。

【F委員】

そのような状況で一番早いのは年度末の全体会議ということになるか。

【A委員】

例えば会長・副会長と、実際議論していただいた部会の皆様には必要に応じてお知恵を借りて、もちろん全体会議委員の皆様にもご意見伺いながら、事務局とも相談していくという作業を半年位行い、次の全体会議で皆さんにもOKいただいて提言するというスケジュールが現実的かと思う。

5 その他

6 閉 会